

あきのくに か も かざはや じょうふくじ  
安芸国賀茂郡風早村 浄福寺文書 目録

(『広島県立文書館 収蔵文書目録』第1集 所収)

広島県立文書館

平成24年(2012)11月

凡 例

- 1 本目録は、『広島県立文書館 収蔵文書目録』第1集(平成6年3月刊)に掲載された「安芸国賀茂郡風早村 浄福寺文書」の目録である。
- 2 目録の各項目は以下のとおり。

請求番号 本文書群の群番号(198825)と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる。

【例】 1/1 198825 / 1 / 1

表 題 資料にある原表題をそのまま採った。原表題がないものは、仮題を付けて〔 〕書きとした。内容について補記が必要な場合は、( )書きで補った。

年 代 資料に記された作成年月日を採用した。

作 成 資料にある作成者名をそのまま採り、資料に授受関係のあるものは で結んで表記した。

形 態 資料の形態を記した。

数 量 資料の点数を記した。

備 考 補記すべき備考があれば、 付きで示した。
- 3 文書の排列は請求記号順とした。
- 4 利用の参考のため、本文書群の解説を冒頭に付した。

## 小 目 次

1 経巻		布施・寄附類……………	6
中世の大般若経……………	1	香典……………	6
経典類……………	5	普請……………	6
		証文……………	6
2 信仰		買物帳類……………	6
追悼文類……………	5	書翰包紙……………	7
仏事……………	5	年玉類包紙……………	7

# 解 説

## 1 浄福寺と文書

豊田郡<sup>(補注)</sup>安芸津町<sup>かぎはや</sup>風早<sup>じょうふくじ</sup>の浄福寺に所蔵されていた、南北朝時代の奥書のある大般若経は、平成元年2月6日付けで県立文書館に寄託された。この折りに、かつて当寺で使われていた大襖4本もお預かりした。この襖の下張り文書は、平成5年2月12日付けで寄贈していただいた。

ところで、浄福寺は臨済宗妙心寺派の寺院で、山号は瑠璃山、本尊は薬師如来である。寺伝によると、慶長5年(1600)に数百メートルほど西の「薬師丸」から現在地に移ったという。この頃は、天台宗の寺院であったようで、創建は長徳4年(998)と伝えられる。妙心寺派の寺院となったのは、名僧の誉高い広島禅林寺第3世虚橋が慶安4年(1650)に隠居寺として再興して以降である。一説には、第2世の実元祖闍が、当寺の実際の中興の祖という。

さて、浄福寺の境内は、小高い山の中腹に位置し、眼下には風早の集落を臨み、遠くは三津湾に浮かぶ島々をも眺めることができる。この地はかつて「陣ヶ下」、その上の山を「陣ノ丘」と呼び、小早川氏の家臣林氏の居宅跡と考えられている。その麓までたどり着くと、戦国時代に築造されたという高い石垣の上に、中国式の山門(鐘楼門)を見上げることになる。現在の鐘楼門は、昭和30年代に改築したものという。下段の写真1が、改築以前の鐘楼門である。

当文書館に寄託された、南北朝時代の大般若経100巻余は、かつてこの旧鐘楼門の一隅に置かれていた。しかし、第14世の先代住職も、その所在を知らなかったらしい。現住職伊藤陽堂氏のお話によると、御尊父からこの大般若経のことを教わった記憶がないという。また、関係の文献も残されていないので、これらの経巻がいつ頃から、なぜ浄福寺に伝わったのかについては全く分からない。

なお、浄福寺から預かった大襖は、下張りに古文書らしい書き物が見えたので、焼却を免れたものである。当文書館では、表具師をお願いして、この襖を丁寧に解体し、かなりの数の下張り文書を取り出すことができた。

## 2 南北朝時代の大般若経

南北朝時代の大般若経100巻余のうち、約4割のものに奥書がある。しかも、その奥書は大きく2種類に分けられる。その一は、経巻が書写されたときのもの。その二は、経巻が施入されたときのものである。これらの奥書を手掛に、南北朝時代の大般若経がどのように伝来し、また書写されたのかを探ることにする。



写真1 改築前の浄福寺鐘楼門の遠景(伊藤陽堂氏提供)

### (1) 大般若経の伝来

浄福寺に伝えられたこれらの経巻は、享徳元年(1452)9月23日付けで、周防国伊保庄<sup>いほのしょう</sup>賀茂大明神(現山口県柳井市大字伊保庄近長)に施入された。このときの大願主は孫兵衛と権律師朝忠である〔1-1, 3, 18, 19, 25, 47, 55, 71, 80, 96〕。彼ら二人の名前は、節目に当たる経巻の、一と十の付く巻の奥書に書き入れられた可能性がある。例えば、巻第二百三十一と巻第二百四十、巻第二百九十一と巻第三百、巻第三百四十一と巻第三百五十の奥書には、それぞれ大願主である孫兵衛と権律師朝忠、もしくは孫兵衛のみの名前が見える。対ではないが、巻第二百一と巻第三百九十一にも、両名の名前が確認できる。その対となる巻第二百十と巻第四百にも、孫兵衛と権律師朝忠の名前があったと推測される。彼ら大願主が伊保庄の賀茂大明神に大般若経を施入したのは、自らの無病安穩、息災延命、諸願成就などのためであった〔1-19, 25, 80〕。しかし、孫兵衛がどういう人物で、賀茂大明神といかなる関係にあったのかは不明である。ただ、孫兵衛の名前だけを奥書に認めた経巻も

3巻あり、相当の有徳人であり、この大般若経施入に主導的な役割を果たした人と考えられる。いま一人の大願主権律師朝忠は、無動寺(現山口県柳井市大字阿月畑)の第4世となった朝忠僧都と同一人物ではないかと考えられる。福本幸夫氏の御教示によれば、朝忠が無動寺の住職を務めたのは、文安元年(1444)から文明18年(1486)までの44年間であったという。そうすると、大般若経が伊保庄の賀茂大明神に施入された当時、権律師朝忠が無動寺の住職であった可能性が高い。なお、無動寺はこの約200年後に賀茂大明神の別当寺になる。

では、いかなる理由で、伊保庄の賀茂大明神に施入された大般若経が、安芸津町の浄福寺に伝わるようになったのであろうか。伊藤陽堂氏の言によれば、両所とも京都の賀茂神社の社領であったからということになるが、これ以上のことは今のところ分からない。ただ、推測が許されるならば、伊保庄の賀茂大明神と豊田郡風早村の浄福寺を繋ぐものとして、小早川隆景もしくは彼の周辺の人物を挙げることができる。なぜなら、小早川隆景・児玉就方らが、永禄6年(1563)8月29日に、賀茂大明神に本地仏の釈迦三尊像を寄進したことが知られ(『閩閩録遺漏』巻3の2)、しかも当時の風早村は小早川領であったからである。この他にも、戦国大名の手で、安芸国の草津八幡神社などに遠方から大般若経が移された例があり、一つの可能性として考えることができる。

## (2) 大般若経の書写

大般若経は全部で600巻にもなり、一度に書写することは容易ではない。浄福寺に伝えられた100巻余の経巻の場合も、書写された時期は一定しない。最も早く書写されたことが知られる経巻は、巻第三百九十九で、応安4年(1371)11月19日のことである〔1-103〕。取り分け、奥羽津軽十三湊(現青森県北津軽郡市浦村)の僧快融という人物が、その右筆を務めたことは注目に値する。この折りの願主は、あとで詳述する高尾山常燈寺(山口県光市大字小周防)の僧快印であった。願主快印と右筆快融は、師弟もしくは兄弟弟子であったと想定できる。最も遅く書写されたのは巻第二百一十五で、奥書に明德5年(1394)2月28日の日付がある〔1-6〕。これに次ぐのが、巻第二百八十五の同年2月7日である〔1-43〕。前者は断簡で詳細は不明であるが、後者は「小周防常燈寺」で書写され、大願主が快印であったことが分かる。願主快印の名前は、この他に11巻の経巻奥書で確認できる。巻第三百三の表紙裏には、「高尾之快印」とも記されていた〔1-57〕。巻第二百八十八にはまた、「高尾山常燈寺常住也」との奥書も見える〔1-45〕。賀茂大明神に施入された大般若経は、もともと常燈寺の什物として、住僧快印が願主となり、彼の主導のもとに、長い時間をかけて書写されたものと推測される。なお、至徳2年(1385)7月27日に書写された、巻第三百四などの奥書には、「般若第一教、此経結縁者、雖有重業障、忽当得作仏」という偈が挙げられている。僧快印が大般若経書写の結縁者を募るに当たって、このような教えが説かれたものと推測される。

次に、経巻を書写した場所であるが、日面寺密蔵坊・防州阿弥陀寺・高尾山常燈寺・花岳宮中坊の4カ所が確認できる。このうち、日面寺密蔵坊での書写が分かる経巻は、僧宥深の手になるもの3巻のみで、至徳2年6月に写されたことが分かる〔1-12~14〕。防州阿弥陀寺で写した経巻は、僧良伝の手になる、至徳4年(1387)3月26日付けの巻第二百三十のみである〔1-18〕。花岳宮中坊でのものも、僧宥明が明德元年(1390)7月28日に書写した巻第三百だけである〔1-55〕。この他の11巻の経巻は、高尾山常燈寺の中坊や薬師堂などで書写されたことが分かる〔1-43,45,69,70,81~87,104〕。その中でも、巻第三百五十一から巻第三百六十までの7巻は、常燈寺の住僧禅光が至徳2年7月27日から同年9月5日にかけて中坊で一人で書写したものである〔1-81~87〕。なお、僧禅光の外に、多くの経巻を一時期に書写したものに僧良尊がいる。彼の場合は、至徳2年5月28日から8月19日までの間に6巻の大般若経を写したが、巻第三百六十一から六十六まで5巻はまとまっている〔1-88~92〕。大般若経の書写事業が一応軌道に乗ると、10巻ぐらいつづつの経巻をそれぞれの僧が引き受けたものと推測される。つまり、1帙請負方式である。

大般若経の書写に当たった僧は、その名前によって弁別すれば、三つのグループに分けることができると思う。一つは、「宥」を通字とする、宥深・宥尊・宥明・宥秀のグループである。二つは、「良」を通字とする、良尊・良伝・良熊・良宝のグループである。残りの一つは、その他のグループで、快融・禅光・尊海らの名前を挙げることができる。ただし、それぞれのグループ内で、あるいは

はグループ相互にどのような関係があったのかは不明である。

### (3) 大般若経の形態

大般若経の体裁は、縦が36.0~27.3糎、横が14.9~16.9糎の折本である。折本それぞれに、薄い小豆色の紙の表紙が付いている。また、どの折本も、同じ色の畳紙で包まれている。しかし、折本の末尾が畳紙に貼り付けられているため、裏表紙は省略している。経巻の名前は、折本の表紙ではなく、畳紙を折り畳み、表紙を覆った右側の面に「封 大般若波羅密多経巻第二百三十四」のごとく、黒々とした墨で書かれている。

写経の料紙は、楮紙を黄肌に染め、それに縦と横の罫を引いたものを用いている。貼り継いだ紙の大きさは、縦が26.0~27.3糎、横が37.5~41.2糎であり、必ずしも均一とはいえない。中には、横幅22.0糎の料紙を使っているものもある。目録の形態欄に、料紙の横幅を「一紙40.6」のごとく示した。

なお、折本の仕立ては、約2糎幅の8行をもって一折とするのが標準である。残された経巻のうち、57巻がそれに当たる。ただ、1行が2糎幅を超えるものは、一折7.5行となっており、この部類に入る経巻も24巻ある。ところが、1行が約1.6糎幅あるいはそれを超えるものも、合わせて21巻ある。例えば、さきに見たように、常燈寺の住僧禅光が日を接して書写した、巻第三百五十一から巻第三百六十のうち、巻第三百五十五までは8行仕立て、それ以降の巻は10行仕立てになっていた。このような不揃いが現れたのは、料紙の作り方の指示の不徹底というより、その入手経路が一定しなかったためではないだろうか。

いま一つ付言すると、中世の大般若経の中に、5行仕立ての経巻が3巻紛れ込んでいたが〔1-105~107〕、これは全く別物と言わざるをえない。

### 3 襖の下張り文書

浄福寺でも、例にもれず、反故の類までも、紙の類を大切にしていた。そして、大襖を作るのに、これらの紙片が下張りに使われたのである。この度、大襖を解体して、下張りの文書を取り出したが、そのほとんどが書簡類や包紙、あるいは香典帳・買物帳など帳面の類であった。取り分け、供養袋〔3-4 23〕や年玉の包〔3-7 8〕までも、下張りの材料として用いられたのは、紙の使い方を考えるうえで大変興味深い。

なお、供養袋の文面より、江戸時代後期にも、浄福寺の本尊薬師如来の開帳供養が、春2月15日から3月17日まで開かれたことが知られる。薬師如来の開帳供養は、臨済宗妙心寺派に因むものではない。おそらくは、改宗以前の当寺の年中行事が、その後も長く続いてきたものと推測される。ところで、浄福寺の普請に、同じく広島禅林寺の末寺であった、山県郡戸河内町實際寺の経蔵が解体され、その材木が用いられたことも、下張りに使われた文書によって確認できる〔3-20〕。

ただ、残念なことに、下張り文書のほとんどが全くの断簡であり、原状の復元は極めて困難である。しかし、その断簡からも、これらの面白い史実が見出せるわけであるから、決して粗末にすべきではないだろう。

### 4 浄福寺文書の利用

浄福寺文書のうち、中世の大般若経の奥書の一部24巻分は、『広島県史』古代中世資料編IV(昭和53年刊)の付録として翻刻されている。だが、この奥書を利用した研究は今のところないようである。  
(松井 輝昭)

#### (補注)

浄福寺のある風早は、前近代より昭和30年までは賀茂郡に属し、同31年より豊田郡に属した。現在は、東広島市安芸津町風早となっている。

番号	表題	年代	作成	形態	数量
1/1	大般若波羅密多經 卷第二百一 奥書に大願主として「弥兵衛・権律師朝忠」の名前あり、「周防国伊保御庄賀茂大明神施入」と見える 26.0×15.9	享徳元. 9. 23(施入)	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.1 一紙とは貼り継いだ料紙の横幅(以下同じ)	1冊
1/2	大般若波羅密多經 卷第二百七 26.5×15.9		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.6	1冊
1/3	大般若波羅密多經 卷第二百一十一 奥書に大願主として「弥兵衛・権律師朝忠」の名前あり、「周防国伊保御庄賀茂大明神之御宝前施入」と見える 26.5×15.0	明徳元. 7. 28	三蔵法師玄奘(訳)金資宥尊(写)	折本 一紙41.2	1冊
1/4	大般若波羅密多經 卷第二百一十二 26.6×15.0	明徳元. 7. 29	三蔵法師玄奘(訳)宥尊(写)	折本 一紙39.7	1冊
1/5	大般若波羅密多經 卷第二百一十三 断簡に近い 26.5×15.0		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.5	1冊
1/6	大般若波羅密多經 卷第二百一十五 断簡(2紙) 26.1×15.0	明徳5. 2. 28	三蔵法師玄奘(訳)尊海(写)	折本 一紙39.5	1冊
1/7	大般若波羅密多經 卷第二百一十六 26.8×15.2		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.5	1冊
1/8	大般若波羅密多經 卷第二百一十七 26.7×15.5		三蔵法師玄奘(訳)良熊(写)	折本 一紙39.6	1冊
1/9	大般若波羅密多經 卷第二百一十八 26.9×15.9	明徳元. 7. 28	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.3	1冊
1/10	大般若波羅密多經 卷第二百一十九 26.8×14.9	明徳元. 7. 28	三蔵法師玄奘(訳)良宝(訳)	折本 一紙39.5	1冊
1/11	大般若波羅密多經 卷第二百二十 末尾欠落 26.2×15.0		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.0	1冊
1/12	大般若波羅密多經 卷第二百二十二 奥書に「於日面寺密蔵坊令書写畢」とあり 26.7×16.0	至徳2. 6.	三蔵法師玄奘(訳)金資宥尊(写)	折本 一紙38.8	1冊
1/13	大般若波羅密多經 卷第二百二十三 奥書に「於日面寺密蔵坊令書写畢」とあり 26.6×15.6	至徳2. 6.	三蔵法師玄奘(訳)金資宥深(写)	折本 一紙38.8	1冊
1/14	大般若波羅密多經 卷第二百二十四 奥書に「於日面寺密蔵坊令書写」とあり 26.7×15.9		三蔵法師玄奘(訳)宥深(写)	折本 一紙38.5	1冊
1/15	大般若波羅密多經 卷第二百二十六 26.5×15.6		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.2	1冊
1/16	大般若波羅密多經 卷第二百二十七 26.9×15.6		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.4	1冊
1/17	大般若波羅密多經 卷第二百二十九 表紙裏に「宥深」とあり 26.5×16.0	至徳3. 9. 20	三蔵法師玄奘(訳)	折本	1冊
1/18	大般若波羅密多經 卷第二百三十 奥書には「於防州阿弥陀寺書写了」とあり、ついで大願主「孫兵衛・権律師朝忠」が「周防国伊保庄賀茂大明神之御宝前奉施入」と見える 表紙裏に「宥秀」とあり 26.5×15.8	至徳4. 3. 26・享徳元. 9. 23(施入)	三蔵法師玄奘(訳)良伝(写)	折本 一紙37.7	1冊
1/19	大般若波羅密多經 卷第二百三十一 奥書に「大檀那孫兵衛」が「今生後後生悉地円満」のため周防国伊保庄賀茂大明神之御宝前奉施入」とあり 表紙裏に「校行一度了 宥秀」と見える 27.3×16.5	享徳元. 9. 23(施入)	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙41.0	1冊
1/20	大般若波羅密多經 卷第二百三十二 26.5×15.9		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.9	1冊

番号	表 題	年 代	作 成	形態	数量
1/21	大般若波羅密多經 卷第二百三十三 26.5 × 16.0		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙40.8	1 冊
1/22	大般若波羅密多經 卷第二百三十四 26.4 × 16.0		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙38.4	1 冊
1/23	大般若波羅密多經 卷第二百三十六 26.2 × 15.7		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙41.3	1 冊
1/24	大般若波羅密多經 卷第二百三十九 26.4 × 16.1		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙38.1	1 冊
1/25	大般若波羅密多經 卷第二百四十 享徳元. 9. 23( 施入 ) 奥書に大願主「孫兵衛・権律師朝忠」が「無病安穩息災延命」などのため「周防国伊保庄賀茂大明神之御宝前奉施入」とあり 26.2 × 15.6		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙37.6	1 冊
1/26	大般若波羅密多經 卷第二百四十一 26.2 × 16.9		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙37.7	1 冊
1/27	大般若波羅密多經 卷第二百四十七 26.5 × 16.2		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙38.0	1 冊
1/28	大般若波羅密多經 卷第二百五十一 26.5 × 16.2		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙37.5	1 冊
1/29	大般若波羅密多經 卷第二百五十二 26.3 × 16.1		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙39.3	1 冊
1/30	大般若波羅密多經 卷第二百五十三 26.6 × 16.5		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙41.2	1 冊
1/31	大般若波羅密多經 卷第二百五十四 26.5 × 15.9		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙39.0	1 冊
1/32	大般若波羅密多經 卷第二百五十五 断簡( 7 枚 ) 26.5 × 16.5		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙39.3	1 冊
1/33	大般若波羅密多經 卷第二百五十六 26.9 × 16.0		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙41.0	1 冊
1/34	大般若波羅密多經 卷第二百五十七 断簡( 5 枚継紙 ) 26.7 × 15.5		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙37.5	1 冊
1/35	大般若波羅密多經 卷第二百五十八 26.5 × 15.9		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙40.5	1 冊
1/36	大般若波羅密多經 卷第二百五十九 表紙のみ				
1/37	大般若波羅密多經 卷第二百六十 一部異筆が入っている 26.5 × 16.2		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙39.5	1 冊
1/38	大般若波羅密多經 卷第二百六十二 26.5 × 15.5		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙41.2	1 冊
1/39	大般若波羅密多經 卷第二百八十一 断簡( 2 紙 ) 26.5 × 15.7		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙38.8	1 冊
1/40	大般若波羅密多經 卷第二百八十二 26.6 × 16.5		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙38.0	1 冊
1/41	大般若波羅密多經 卷第二百八十三 26.5 × 16.4		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙39.4	1 冊
1/42	大般若波羅密多經 卷第二百八十四 26.7 × 16.1		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙40.3	1 冊
1/43	大般若波羅密多經 卷第二百八十五 明徳 5. 2. 7 奥書に「大願主快印」とあり、さらに「周防国於小周防常燈寺書写」と見える 26.8 × 15.4		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙39.7	1 冊
1/44	大般若波羅密多經 卷第二百八十六 26.5 × 15.2		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙40.0	1 冊
1/45	大般若波羅密多經 卷第二百八十八 明徳 3. 2. 5 奥書に願主として「良仙」の名前があり、また「高尾山常燈寺住持也」と見える 26.4 × 15.9		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙39.9	1 冊
1/46	大般若波羅密多經 卷第二百八十九 表紙・後半部欠落 26.3 × 15.2		三蔵法師玄奘( 訳 )	折本 一紙40.1	1 冊

番号	表題	年代	作成	形態	数量
1/47	大般若波羅密多經 卷第二百九十一 奥書に「大願主孫兵衛」が「賀茂大明神之御宝前奉施入」とあり 26.5×15.1	至徳2.5.28・享徳元.9.23(施入)	三蔵法師玄奘(訳)・金資良尊(写)	折本 一紙38.1	1冊
1/48	大般若波羅密多經 卷第二百九十二 後半部欠落 26.5×14.9		三蔵法師玄奘(訳)・金資良尊(写)	折本 一紙37.8	1冊
1/49	大般若波羅密多經 卷第二百九十三 26.5×15.4		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.1	1冊
1/50	大般若波羅密多經 卷第二百九十四 奥書は破損 26.9×16.0	至徳2.	三蔵法師玄奘(訳)・金資某	折本 一紙37.5	1冊
1/51	大般若波羅密多經 卷第二百九十五 末尾欠落 26.7×15.2		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.5	1冊
1/52	大般若波羅密多經 卷第二百九十七 26.7×15.1		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.8	1冊
1/53	大般若波羅密多經 卷第二百九十八 26.5×15.7		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.2	1冊
1/54	大般若波羅密多經 卷第二百九十九 26.6×15.4		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.5	1冊
1/55	大般若波羅密多經 卷第三百 奥書には「花岳宮於中 坊書写了」とあり、ついで「大願主孫兵衛・権律師朝忠」が「周防国伊保庄賀茂大明神之御宝前奉施入」と見える 26.5×15.5	明徳元.7.28・享徳元.9.23(施入)	三蔵法師玄奘(訳) 宥明(写)	折本 一紙39.5	1冊
1/56	大般若波羅密多經 卷第三百一 後半欠落 26.0×15.0		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.1	1冊
1/57	大般若波羅密多經 卷第三百三 奥書に「願主朝印」の名前あり表紙裏に「高尾之 快印」と見える 25.5×15.2	至徳2.7.12	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.0	1冊
1/58	大般若波羅密多經 卷第三百四 奥書に「願主快印」の名前が見え、またこの經の結縁者は「雖有重業障、忽当得作仏」との偈あり 表紙裏に「高尾」と見える 25.8×15.2	至徳2.7.27	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.2	1冊
1/59	大般若波羅密多經 卷第三百五 奥書に「願主快印」の名前が見え、またこの經の結縁者は「雖有重業障、忽当得作仏」との偈あり 經典の末尾欠落 25.7×15.2		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙27.6	1冊
1/60	大般若波羅密多經 卷第三百六 奥書に願主として「金剛仏子快印」の名前があり 26.4×15.8		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙37.7	1冊
1/61	大般若波羅密多經 卷第三百八 奥書に願主として「金剛仏子快印」の名前があり 26.5×16.0		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.5	1冊
1/62	大般若波羅密多經 卷第三百九 奥書には「願主金剛仏子快印」の名前が見え、またこの經の結縁者は「雖有重業障、忽当得作仏」との偈あり 25.6×15.4		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.3	1冊
1/63	大般若波羅密多經 卷第三百十 末尾のみ残る		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙41.3	1冊
1/64	大般若波羅密多經 卷第三百十二 26.7×15.7	明徳2.8.1	三蔵法師玄奘(訳) 良宝(写)	折本 一紙39.7	1冊
1/65	大般若波羅密多經 卷第三百十三 26.9×15.3	明徳元.8.20	三蔵法師玄奘(訳) 金資宥秀(写)	折本 一紙39.2	1冊
1/66	大般若波羅密多經 卷第三百十五 26.8×15.2		三蔵法師玄奘(訳) 良熊(写)	折本 一紙39.5	1冊
1/67	大般若波羅密多經 卷第三百十七 前半部欠落 26.5×15.5	明徳元.7.29	三蔵法師玄奘(訳) 宥尊(写)	折本 一紙40.2	1冊
1/68	大般若波羅密多經 卷第三百十八 26.2×15.2		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.3	1冊
1/69	大般若波羅密多經 卷第三百三十三 奥書に「於高尾山房書写了」とあり 26.5×15.0	至徳2.7.26	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙22.0	1冊

番号	表題	年代	作成	形態	数量
1/70	大般若波羅密多經 卷第三百三十五 奥書に「於高尾山藥師堂御宝前書写畢」とあり	至徳2.8.8 26.5×15.2	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.2	1冊
1/71	大般若波羅密多經 卷第三百四十一 奥書に「大檀那孫兵衛」が「周防国伊保庄於賀茂御宝前奉施入」とあり	享徳元.9.23(施入) 26.5×15.4	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.4	1冊
1/72	大般若波羅密多經 卷第三百四十二 26.4×15.2		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.6	1冊
1/73	大般若波羅密多經 卷第三百四十三 26.4×15.3		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.9	1冊
1/74	大般若波羅密多經 卷第三百四十四 26.5×15.5		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.3	1冊
1/75	大般若波羅密多經 卷第三百四十五 26.6×15.0		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙26.4	1冊
1/76	大般若波羅密多經 卷第三百四十六 断簡 26.3×14.6		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.7	1冊
1/77	大般若波羅密多經 卷第三百四十七 26.5×15.6		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.0	1冊
1/78	大般若波羅密多經 卷第三百四十八 26.6×15.3		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.2	1冊
1/79	大般若波羅密多經 卷第三百四十九 26.6×15.7		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙27.8	1冊
1/80	大般若波羅密多經 卷第三百五十 奥書に「大願主孫兵衛」が「信心之大檀那」の「息災延命、現当二世」などのために、「周防国伊保庄於賀茂御宝前奉施入」とあり	享徳元.9.23(施入) 26.7×15.8	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.0	1冊
1/81	大般若波羅密多經 卷第三百五十一 奥書に「於防州高尾中坊書写之訖」とあり	至徳2.7.28 26.5×16.2	三蔵法師玄奘(訳)住僧禅光 (写)	折本 一紙38.4	1冊
1/82	大般若波羅密多經 卷第三百五十二 奥書に「於防州高尾中坊書写之訖」とあり	至徳2.7.27 26.6×16.2	三蔵法師玄奘(訳)住僧禅光 (写)	折本 一紙39.1	1冊
1/83	大般若波羅密多經 卷第三百五十五 奥書に「於防州高尾中坊書写之訖」とあり	至徳2.9.1 26.5×15.9	三蔵法師玄奘(訳)住僧禅光 (写)	折本 一紙38.1	1冊
1/84	大般若波羅密多經 卷第三百五十七 奥書に「於防州高尾中坊書写之訖」とあり	至徳2.9.3 26.8×16.	三蔵法師玄奘(訳)禅光(写)	折本 一紙31.3	1冊
1/85	大般若波羅密多經 卷第三百五十八 奥書に「於防州高尾中坊書写之訖」とあり	至徳2.9.4 26.5×15.6	三蔵法師玄奘(訳)住僧禅光 (写)	折本 一紙40.3	1冊
1/86	大般若波羅密多經 卷第三百五十九 奥書に「於防州高尾中坊書写之訖」とあり、「伏願、上報四恩、下資三有者也」との祈願文も見える	至徳2.9.5 26.5×15.9	三蔵法師玄奘(訳)住僧禅光 (写)	折本 一紙39.4	1冊
1/87	大般若波羅密多經 卷第三百六十 奥書に「於防州高尾中坊書写之訖」とあり、「伏願、以彼功薰普及六道四生」などの祈願文も見える	至徳2.9.5 26.7×15.5	三蔵法師玄奘(訳)住僧禅光 (写)	折本 一紙39.1	1冊
1/88	大般若波羅密多經 卷第三百六十一 奥書に「金資」とあり	至徳2.7.28 26.7×17.5	三蔵法師玄奘(訳)金資良尊 (写)	折本 一紙37.9	1冊
1/89	大般若波羅密多經 卷第三百六十三 奥書に「金資良尊」とあり	至徳2.8.3 26.5×16.0	三蔵法師玄奘(訳)金資良尊 (写)	折本 一紙39.2	1冊
1/90	大般若波羅密多經 卷第三百六十四 奥書に「金資良尊」とあり	至徳2.8.5 26.7×16.0	三蔵法師玄奘(訳)金資良尊 (写)	折本 一紙39.8	1冊
1/91	大般若波羅密多經 卷第三百六十五 奥書に「金資良尊」とあり	至徳2.8.8 26.5×15.5	三蔵法師玄奘(訳)金資良尊 (写)	折本 一紙40.2	1冊
1/92	大般若波羅密多經 卷第三百六十六 奥書に「金資良尊」とあり	至徳2.8.19 26.5×15.5	三蔵法師玄奘(訳)金資良尊 (写)	折本 一紙40.0	1冊
1/93	大般若波羅密多經 卷第三百六十八 26.4×15.2		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.3	1冊
1/94	大般若波羅密多經 卷第三百六十九 26.6×15.5		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.3	1冊

番号	表 題	年 代	作 成	形態	数量
1/95	大般若波羅密多經 卷第三百七十四 末尾欠落 26.7×15.0		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.2	1冊
1/96	大般若波羅密多經 卷第三百九十一 奥書には「願主沙門快印」とあり、ついで「大願主孫兵衛・権力律師朝忠」が「周防国伊保御庄賀茂大明神之御宝前施入」と見える 26.5×15.7	享徳元.9.23(施入)	三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙41.7	1冊
1/97	大般若波羅密多經 卷第三百九十二 末尾欠落 26.6×15.4		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.2	1冊
1/98	大般若波羅密多經 卷第三百九十四 奥書には「願主沙門快印」とあり 26.5×16.6		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙39.9	1冊
1/99	大般若波羅密多經 卷第三百九十五 奥書には「願主沙門快印」とあり 前半部欠落 26.7×15.5		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.8	1冊
1/100	大般若波羅密多經 卷第三百九十六 表紙・裏表紙欠落		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙41.1	1冊
1/101	大般若波羅密多經 卷第三百九十七 奥書には「願主沙門快印」とあり 26.6×15.2		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.8	1冊
1/102	大般若波羅密多經 卷第三百九十八 奥書には「願主沙門快印」とあり 26.5×15.1		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.7	1冊
1/103	大般若波羅密多經 卷第三百九十九 奥書には「願主沙門快印」とあり、ついで「右筆奥羽津軽十三湊住呂仏子快融」と見える 26.7×15.6	応安4.10.19	三蔵法師玄奘(訳)・快融(写)	折本 一紙39.1	1冊
1/104	大般若波羅密多經 卷第四百四十二 奥書には「願主快印」の名前とともに、右筆が「於中坊書写畢」ある 26.2×15.1	嘉慶3.2.16	三蔵法師玄奘(訳)良熊(写)	折本 一紙39.0	1冊
1/105	大般若波羅密多經 卷第三百六十七 26.2×9.5		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.2	1冊
1/106	大般若波羅密多經 卷第三百六十八 26.3×9.4		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙40.0	1冊
1/107	大般若波羅密多經 卷第三百六十九 26.2×9.5		三蔵法師玄奘(訳)	折本 一紙38.9	1冊

### 經典類

4	叢林校定清規總要卷下 下張り文書(断簡) 嘉定3年は南宋年号カ 1210年(建永4年)	(嘉定3.)	(龜峯首座寮比丘宗寿)	豎冊	1冊
5	金光明最勝王經 卷第二 下張り文書(断簡15紙)		三蔵法師義浄(訳)	豎切紙	1枚

## 2 信仰

### 追悼文類

2/2	〔贊嘆文〕 下張り文書(断簡)			切紙?	1枚
3/16	頌古 下張り文書(断簡1枚)		侍者無隠(編)	横半	1冊
3/19	〔浄福寺主実母追悼文土代〕 下張り文書(断簡2枚)			豎紙	1枚
3/22	寂室和尚示嗣道者 下張り文書(断簡)		三蔵法師玄奘(訳)	豎紙	1枚

### 仏事

3/4	供養米〔袋表書〕 下張り文書(断簡28袋)			豎切紙?	1枚
-----	--------------------------	--	--	------	----

番号	表 題	年 代	作 成	形態	数量
3/23	賀茂郡風早村瑠璃山浄福寺薬師如来開帳供養袋(2月15日~3月17日迄) 下張り文書(元袋2紙)			豎切紙?	1枚
<b>布施・寄附類</b>					
2/5	〔布施受取帳〕 下張り文書(断簡1枚)				
2/6	〔布施受取帳カ〕 下張り文書(断簡2枚)			元綴	1綴
2/7	〔布施受取帳〕 下張り文書(断簡2枚)			元綴	1綴
2/8	〔祝品献呈人綴〕 下張り文書(断簡2枚)			元綴	1綴
2/9	〔春頃為御祝儀也〕 下張り文書(断簡)				
3/2	〔某寄附帳〕 下張り文書(断簡3枚)			切紙	1枚
3/15	〔中谷兵四郎布施証文〕 下張り文書(断簡1枚)		(浄福寺)	豎紙	1枚
<b>香典</b>					
3/1	葬式節参詣(葬式参列者名簿) 下張り文書(2枚)			元綴	1綴
3/3	〔某氏葬儀香典扣〕 下張り文書(断簡)	? .10	浄福寺	元綴	1綴
<b>普請</b>					
3/1	〔浄福寺再興上梁併銘案〕 下張り文書(断簡2枚)番号重複		(浄福寺現住比丘カ)	切継紙	1枚
3/20	覚(戸河内村實際寺経蔵解体の材木引きに付)			切紙	1枚
3/21	〔浄福寺普請入目覚〕 下張り文書(断簡3枚)			元折紙	1枚
<b>証文</b>					
3/13	覚(和田屋喜兵衛受取証文) 下張り文書		和田屋喜兵衛 善林寺	切継紙	1枚
<b>買物帳類</b>					
2/3	覚(某寺買物帳) 下張り文書(断簡1紙)			元折紙	1枚
2/4	〔某帳面〕 下張り文書(断簡)			元綴	1綴
3/9	恵戒書翰 下張り文書(断簡)	12.9	恵戒	切紙	1枚
3/10	宋空書翰 下張り文書(断簡)	8.29	宋空	切紙	1枚
3/11	某書翰(上茶のお礼) 下張り文書(断簡)	7.2		豎紙	1枚

番号	表 題	年 代	作 成	形態	数量
3/12	某書翰 下張り文書(断簡3枚)			切紙	1枚
3/17	服替覚〔帳表紙〕 下張り文書(断簡1枚)	安永2.11.		豎切紙	1枚
3/21	大福帳〔表紙〕 下張り文書(断簡1紙)	安永3.1.吉		元横長	1冊
3/24	安永式年小遣日記・飯米覚 下張り文書(断簡18紙)	安永2.	(浄福寺)	元横長	1冊

## 書翰包紙

3/5	金竜寺某書翰包紙 下張り文書(断簡)		(広島)金竜寺某 浄福寺某	包	1包
3/6	宮田兵次書翰包紙 下張り文書		(藤田某内)宮田兵次 浄福寺	包	1包
3/14	〔長州白松書翰包紙〕 下張り文書(断簡)		長州白松 芸国其柳公	包	1包

## 年玉類包紙

3/7	〔大田隠居彦七年玉包紙〕 下張り文書(断簡)		大田隠居彦七 (浄福寺)	包	1包
3/8	〔大田隠居彦七御礼包紙〕 下張り文書(断簡)		大田隠居彦七 (浄福寺)	包	1包